

救急医×公衆衛生医師の挑戦 南の島の保健所から



鹿児島県徳之島保健所
兼 名瀬保健所
名瀬 謙一

兵庫県西宮市出身。千葉大学生物学科在学中に起業。平成25年鹿児島大学に医学部学士編入学。令和2年度から鹿児島大学病院救急・集中治療科に入局し、鹿児島県立大島病院、鹿児島大学病院、鹿児島市立病院での救急科専門研修プログラムを経て5年度から名瀬保健所、徳之島保健所勤務、6年度から現職。

藤田利枝全国保健所長会会長から本企画を紹介いただき、「私にも言わせて」いただくことになりました。公衆衛生医師の道に至った経緯や現在の取り組み、勤務地であり母の故郷でもある徳之島をはじめ奄美群島の魅力などをお伝えしたいと思います。

ギョーザ屋台から医学部へ

振り返ると、いろいろな巡り合わせがあり公衆衛生医師の道に至りました。最初の千葉大学入学時には医師としての興味もあつたのですが、これからはバイオテクノロジーが世界を変える、だからバイオベンチャーを立ち上げるんや、との思いで生物学科に入学しました。しかしながら、生命科学の知識は乏しく何をしようか迷っていたところ、同じ大学の先輩起業家から自分のできることで起業したら?とアドバイスを受け、在学中に学生の就活支援等の事業を開始しました。

離島医療の課題を 目の当たりにして

学生ベンチャーという響きは良いですが、いろいろな事業を経て最終的にはギョーザの屋台などを経営していました。この時に、今後の人生で自分がしたいことは何かを改めて自問し、人々が一番大事にしているものに関わる仕事をしよう、おそらくそれはギョーザではなく命であろう、との思いから医学部に編入することを決意しました。

診療科については、多くの人命に関わることができる診療科を考えていました。加えて、今後大規模

災害医療についてはDMAT(災害派遣医療チーム)として訓練や研修に参加した際に、保健医療福祉調整本部など行政の重要性を感じていたのですが、パンデミックではよりいっそう行政の役割が重要であることを実感し、救急医としての経験を踏まえて保健行政に関わりたいと思い、保健所の門をたたきました。

奄美大島にある名瀬保健所での勤務を開始したものの、臨床との違いに最初は戸惑いの連続でした。まず行政用語が分からず、職場で皆が「きゃんする、きゃんする」と言っていたので奄美の方言なんだろうかと思つて聞いてみたら「起案する」のことでした。また、難病の更新手続きでは事務作業の膨大さに困惑しながらも、同僚の助けをもらいつつ何とか日々を過ごしています。現在は疾病対策係に所属しており、主に難病対策や、感染症対応、災害対策に関する業務を行っています。

救急医×公衆衛生医師の 挑戦

災害対策については能登半島地震においてDHEAT(災害時健康

災害や薬剤耐性菌の増大により多くの被害が想定されるため、その際に役に立てる診療科に進もう、との考えもあり救急科に進むことを決めました。救急科では主に奄美大島にある鹿児島県立大島病院で働きました。県立大島病院は離島で唯一の救命救急センターを有し、ドクターヘリは奄美群島全域に出動します。

奄美群島は世界自然遺産に選ばれるほどの豊かな森林、そして美しい海に囲まれた島々なのですが、鹿児島本土や沖縄本土からそれぞれ400km近く離れており、絶海の離島群ともいえます。この奄美群島には約10万人の住民がおり、奄美大島で完結できない疾患や外傷についてはドクターヘリをはじめとした航空機で搬送する必要があります。しかしながら、ドクターヘリは夜間飛行ができず、代替となる自

危機管理支援チーム)として活動を行い、その経験も踏まえて鹿児島県の総合防災訓練で保健所災害対策本部の立ち上げを企画・実施しました。現在、地域保健総合推進事業における「災害時健康危機管理活動の支援・受援体制整備と実践者養成事業」の事業班にも所属させていただき、救急医としての経験を災害時の保健医療福祉行政に役立てられないかを考え過ごしています。

救急医としては、鹿児島若手救急医の会「救急郷中会」という会を主宰し活動も行っていきます。この会は、鹿児島県が薩摩藩だった時代の郷中教育を参考にした屋根瓦式の教育システムが特徴です。救急医療の向上を目的に、若手を中心に研修会やメデイカルラリー、救急手技の合宿などさまざまな活動を行っています。若手救急医の会として始まりましたが、現在は民間や公的機関の分け隔てなく、各施設の救命救急センター長や教授をはじめ指導者層も参加しているほか、医師以外の医療従事者も多数参加しています。

また、鹿児島から始まりまし

が、九州ブロックや全国学会でのシンポジウム企画、国際学会での発表等、その活動は世界に広がっています。私たちが本来関わなければならぬ相手は大規模災害やパンデミックなど、所属や地域の垣根を越えて、共に闘っていく必要がある相手です。保健行政においても同様に、一致団結して闘いに備える必要があると思います。今回のDHEAT活動や事業班での活動等を通して、全国の皆さまと関わる機会が増えました。今後、公衆衛生上のさまざまな課題について、ぜひ皆さまからご指導いただきながら協力して解決に向けて取り組んでいきたいと思っています。

美しい南の島から

最後に、現在勤務している徳之島保健所管内の魅力をお伝えします。管内は徳之島、沖永良部島、与論島の奄美群島における南三島を管轄しているのですが、どの島も美しい海に囲まれており、ヤシの木やガジュマルが生い茂り、皆さまが想像する南の島の通りだと思えます。与論島の大潮の干潮時しか訪れることができない百合ヶ浜は息を

そんな離島での医療に携わる中、コロナ禍は始まりました。救急外来、ICUでは数多くの新型コロナウイルス感染症患者の対応に当たりましたが、初期のクラスター発生時や重症患者については本土搬送が必要になり、自衛隊機での患者搬送などにも関わりました。この時、保健所をはじめ行政と関わる機会が多く、そこで改めて行政の重要性を痛感しました。

救命救急センターから 保健所へ

のむほど美しく、沖永良部島も海はもちろん地下にある鍾乳洞も見応えがあります。その他、徳之島で特徴的なのは闘牛です。これは赤いマントをひらひらさせた屈強な男が行うそれではなく、牛同士が対決です。何百kgもある牛同士が戦う様子は圧巻で、徳之島にお越しの際はぜひ見してほしいです。また、闘牛だけでなく肉牛も有名で、鹿児島黒毛和牛は日本一にも輝いており大変美味です。なぜか縁があり、私も肉牛を一頭購入するに至りました。人生何があるか分かりません。

自然だけでなく食も豊かな鹿児島にぜひお越しください。皆さまとお会いできる日を楽しみにしています。



購入した牛です